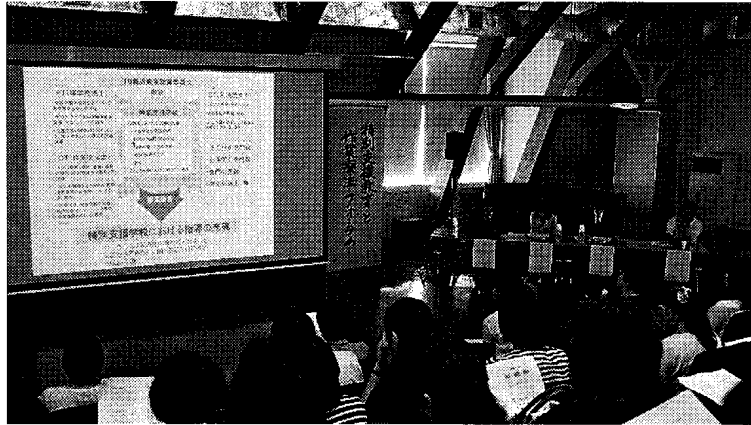


紫波町

作業療法どう生かす

特別支援教育フォーラム



講演やシンポジウムで方向性や課題を探った特別支援教育と作業療法フォーラム

県作業療法士会（藤原瀬津雄会長）は、紫波町で「特別支援教育と作業療法フォーラム」を初めて開いた。同会会員や特別支援学校教諭、療育関係者ら約80人が参加。作業療法士の専門性を特別支援教育に生かしていくための方向性を探った。

フォーラムは同町紫波中央駅前のオガールプラザ大スタジオで4日開かれ、盛岡市立支援学校校長で及川求さん（60）が「特別支援教育における作業療法士の役割と期待」と題して講

演した。及川さんは、少子化で子どもの数は減っている一方、特別支援教育の対象となる子どもの割合が増えている現状を提示。

障害の多様化、保護者の意識の多様化、法令や制度の変更などを背景に現場での仕事量が増加していることから、「学校外の人材、外部専門家の力が必要だ」と強調した。

7月に及川さんが実施した県内の特別支援学校13校への調査の結果、回答した12校中8校が「外部専門家」として作業療法士を導入しているという。「職員が気持ちにくいことを具体的に、詳細に助言してもらえ」などの効果がある一方、「指導内容の共有と引き継ぎ」などが課題に挙げられた。

及川さんは「教員と療法士、異なる分野の専門家同士がお互いの哲学をぶつけ合うことで、学校や社会に

イノベーションを起こしてほしい」と呼び掛けた。

続いて、「作業療法士が学校の先生にとって『ちょっとおもしろくて役に立つ仲間』になるために」と題したシンポジウムも開催。

県作業療法士会特別支援教育班の松田均さん、菅野真さん、一関清明支援学校教諭の渡辺光江さんがパネリスト、及川さんがコメントーターを務めた。現場の取り組みや事例を紹介、今後の方向性や課題を探った。

IT・コミュニケーション機器の活用術についての講義や機器紹介もあった。

◀数独の答え▶

5	3	8	9	2	1	6	4	7
7	6	4	8	5	4	1	2	3
1	2	4	3	6	7	9	5	8
2	5	3	7	9	8	4	6	1
6	9	7	4	1	5	2	3	8
8	4	1	6	3	2	5	7	9
9	7	5	1	8	6	2	3	4
4	1	6	2	7	3	8	9	5
3	8	2	5	4	9	7	1	6